軽井沢 美しい村 KARUIZAWA BEAUTIFUL VILLAGE 軽井沢

グリーン・ブリーズ 第41号 2016.August

GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌

平成 28 年軽井沢写真コンテスト入賞作品「天からの贈り物」大井義昭氏

軽井沢ハーフマラソン 2016

Contents

1 観光ビジョン「心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する」……2p
2 「軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト」始動! ……4p
3 「タイ」インバウンド誘客宣伝報告……5p
4 信州デスティネーションキャンペーン ……5p
5 Ruiza ちゃん取材日記……6p
●「軽井沢ハーフマラソン 2016」
●「グランフォンド軽井沢 2016」
●「第 15 回 ジーロ・デ・軽井沢」
6 ユニバーサルデザインを学ぶ ……7p
7 軽井沢 Topics ……8p
●G7 交通大臣会合まもなく開催!!
●軽井沢・冬ものがたり お知らせ

Karuizawa Tourist Association 軽井沢観光協会

http://karuizawa-kankokyokai.jp

Contents 1

観光ビジョン

軽井沢 美しい村 KARUIZAWA BEAUTIFUL VILLAGE

“心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する”

軽井沢観光協会長・土屋 芳春

軽井沢観光協会では2005年、観光ビジョン『美しい村』を提唱しました。語源は、昭和8年堀辰雄により描かれた作品からの引用で、「先人の高い見識とたゆまぬ努力により培われてきた今日の、美しい、緑豊かな高原リゾート・軽井沢の形成に感謝をし、未来に向かい、上質感漂う軽井沢ブランドの維持と新たな観光文化の創出を目指す」としています。

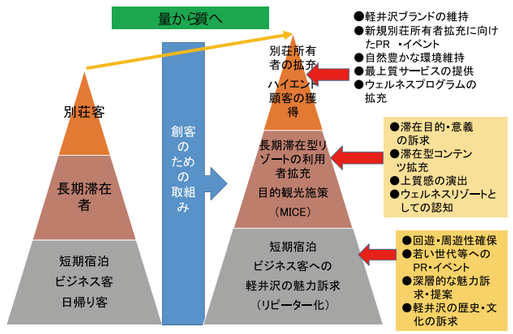
そして、避暑地・別荘地として発展をしてきた130年の歴史と、“屋根のない病院”と謳われ健康に資する場であることに鑑み、“心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する”と具体的な方向性を示しています。今後、芸術や文化、スポーツ、美容、アウトドア、ウォーク、食…など、様々なテーマや場面を具現化し、長期滞在に相応しいリゾートスタイルを確立する活動をしてまいります。

さてこの号では、当協会の軽井沢観光ビジョンと将来活動についてお伝えいたします。

軽井沢は年間800万有余名の観光客を迎える一大観光地であり、町内には様々なニーズで来訪される方々に応えられるよう多様な施設やアクティビティが整っています。そのことが一定の魅力となり顧客獲得につながっていることは間違いありません。

一方で、避暑地・別荘地としての自然や歴史・伝統・文化等が、上質なイメージとして成立していることから、“爽やかな高原”、“清潔な地”、“憧れのリゾート”として広く浸透しています。私たちは観光ビジョン『美しい村』に則り、観光戦略として、今後軽井沢にとってどのような市場に重点を置くか検討を重ね、併せて客層のターゲット化を進めています。(表1)

【マーケティング、マネジメントによる“創客”】



(表1)

当協会では軽井沢の観光マーケットを右記のように考えています。重なる部分もあり明確に分類することは困難ですが、イメージとしてご覧ください。(表2)

大分類として、一般観光と目的別観光、ビジネス誘客の「MICE」としていますが、軽井沢の立地や市場動向、顧客ニーズにより(表2)の線引きは前後します。

軽井沢観光ビジョンの本題にはいります。先ず軽井沢ブランドをつくっている要件を整理しました。

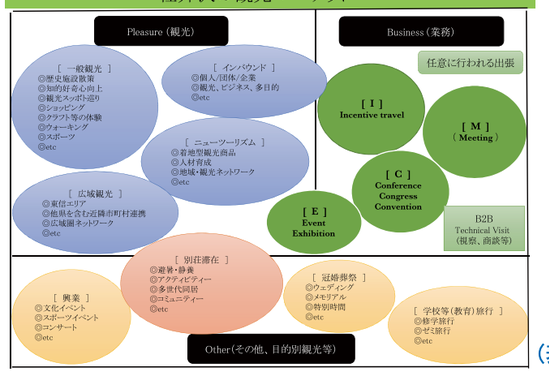
① 雄大な自然と気候(Nature & Climate)

『屋根のない病院 (天然のサナトリウム)』と言われ、心身の安定に資する場所。130年にもおよび避暑地・別荘地として選ばれ、栄えてきた物語性。転地効果、気候的保護作用、気候的刺激作用が揃い“創造を育み、元気(健康)にする”標高1000mのウェルネス(※1)・リゾート!!

② 伝統・歴史(Traditional)

宣教師により見いだされ、その後皇室や政財界、文学者に愛されてきた歴史や伝統。自然、景観の中で育まれた文学や芸術(美術、音楽、建築)など、五感を刺激する様々な空間と時間。

軽井沢の観光マーケット



(表2)

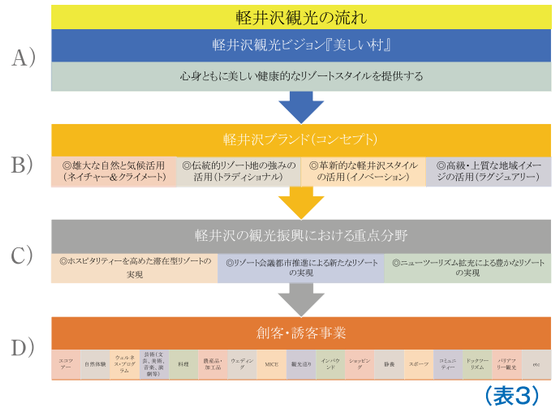
③ 国際性(International)

宣教師や外国人により見いだされ、「国際親善文化観光都市建設法」の発効や、二度のオリンピックを開催してきた場。国際高校(ISAK)の開校、IAK、日中友好協会等NPOの存在など。

④ 落着き・気品(Elegant)

「人に遊ばず、自然に遊べ」とする、清潔で心豊かな避暑スタイル。「万事平等に振る舞え」とする、立場を越えたコミュニティー、軽井沢風俗条例・軽井沢自然保護対策要綱など、環境を維持するための厳格なルールなど。

観光の流れについて。『美しい村(A)』の観光ビジョンを基に、上記の『ブランド(コンセプト)(B)』があり、下記に説明する『重点施策(C)』を通して、具体的な商品造成を行う(表3)とし、事業を進めています。



(表3)

(C)の重点分野は『軽井沢観光振興調査(2013年軽井沢町)』によるもので、

① 『ホスピタリティーを高めた滞在型リゾートの実現』

上質感漂う滞在型リゾートを基本する。しかしグローバル社会とともに観光は益々高度化。そのため創造産業である観光事業に対応する専門的な組織体が必要とされ、国ではDMO(※2)を推進。軽井沢においても観光理念の共有と連携を基に、観光戦略の立案、商品の企画・開発・営業、ワンストップサービス、観光PR、誘客活動等、多多様な事業を遂行できる強靭な組織が求められている。

② 『リゾート会議都市の推進による新たなリゾートの実現』

軽井沢の許容量、“らしさ”に応じたリゾート型のMICE(※3)の誘致。MICEは、①国際化の進展、②地域の上質な知的イメージの向上、③平日、オフシーズンの稼働、④会議、研修等需要の喚起、⑤消費の拡大、地域波及効果、⑥人材の集積・人材育成、⑧新ビジネスの創出、⑨企業・研究機関の誘致等、観光産業活性化のみならず“次代のまちづくり”にむすびつく。

③ 『ニューツーリズムの拡充による豊かなリゾートの実現』

着地型観光(※4)商品造成、広域観光連携(軽井沢をハブとして、様々な日帰り観光の造成や周遊商品の開発)、テーマ別観光商品(創客・誘客の具体的な項目開発)の開拓が急務。

このように、軽井沢観光の将来へつながる顧客層開拓においては、特にこの重点分野は重要です。

さて、冒頭の軽井沢観光ビジョン「美しい村“心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する”」について、具体的に説明をいたします。下記の図を参照ください。(表4)

気候療法の活用
(気候療法の原理は気候と人との間の二つの作用関係)

刺激 人が自然の気候からの刺激に適応する

・風、太陽、低酸素、寒さや冷たさ

保護 気候が体の負担をやわらげ保護する

・きれいな空気、蒸し暑くなく爽快、アレルゲンが少ない

19世紀から20世紀にかけての高山治療は、結核の治療に欠かせないものであった。今日の高山治療では、高山の強い紫外線を利用する、乾癬(かんせん)やアトピー性皮膚炎の治療や、高地にはハウスダニや花粉などのアレルゲンが少ないことから、気管支ぜんそくなどのアレルギー性の気管疾患の治療も行われている。さらに、高山では気温が低く同時に湿度も低いことから、体温調整にあまり負担をかけずに身体運動をすることが可能になる。
つまり、心臓・循環器系の病気の患者にとって海抜800mから1500mの高さの高山気候は、病気予防やリハビリテーションのための持久運動を行う絶好の環境となる。

(ミュンヘン大学気候医学教授 アンゲラー・シュー著「気候療法入門」より) 発行(株)パレード

(表4)

このように、軽井沢はウェルネス(健康)に適する気候や環境が整っており、創客誘客の表で示した通り、あらゆるジャンル(業態)が参加できるテーマであることから、今後ウェルネスをキーワードに様々な商品開発や提供を進めてまいります。

引き続き観光協会の活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

(※1)ウェルネス=自己の生活適応能力を高めるために、食生活・身体活動・休養等をバランスよく生活に取り入れ、生活習慣の改善を促し、自分自身に適合したライフスタイルを確立することであり、疾病の有無にかかわらず、生きがいをもってよりよい人生を送るために、自分自身の生活の質と主観的健康観を高めようとする積極的な生き方を意味する〈法政大学体育・スポーツ研究センター紀要24,27-31(2006)より引用〉

(※2)DMO=Destination Marketing/Management Organization。地域観光の“稼ぐ力”を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくり、と定義づけている。

(※3)MICE=Meeting=会議・研修、
Incentive travel=報奨旅行、
Conference/Convention=国際会議・学術会議、
Exhibition/Event=展示会等
の4つの頭文字を合わせた造語。ビジネスと関わりがあり多数の人の参加・消費が生まれるとされる。

(※4)着地型観光=“地域の魅力は地域の人が一番よく知っている”ことから、今まで旅行社等に任せていた観光に満足できない観光客に対し、地域人自ら地域文化の発信や案内人となり、地域の深層的な魅力に着目し発信すること。

Contents 2

ウエルネスリゾート軽井沢 with your dogs!
『軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト』始動!!

事業委員会：西山紀子（当プロジェクト事務局長）

当協会では、「人と犬が健康で楽しく幸せに暮らせる町・軽井沢」をスローガンに、犬連れで軽井沢を訪れる方々の受け入れ充実に向けて、表題プロジェクトを立ち上げました。

自然豊かな避暑地軽井沢は犬にとっても最高の環境で、別荘住民や観光客など、来軽者と一緒に訪れるワンちゃんは年々増えています。ドッグスポーツ愛好家などアクティブな飼い主も多く、周知のとおり愛犬は家族の一員でありパートナー的存在で、旅行も一緒にというスタイルが定着してきています。

町内には愛犬と一緒に観光や自然を満喫できる場所はもちろん、一緒に宿泊できる施設や、食事ができるレストランなど、愛犬家にやさしい施設も増えてきました。しかしながら、施設の受け入れ内容は細部で異なり、トラブルなどに発展する例も見られます。

そのようなことから当プロジェクトでは、犬連れで軽井沢を訪れる方々に協会の進める「ウエルネスリゾート」に因みストレスなく滞在していただけるよう、飼い主のマナー・モラルの啓発・受け入れ側の知識向上や情報の共有などに努めてまいります。

犬を飼っている人、飼っていない人、苦手な人も、地域全体が笑顔で受け入れられるような環境を目指して行きたいと考えています。

「エクストリーム軽井沢大会」（10月15-16日） 軽井沢で初開催！

人と犬の共同スポーツ・エクストリームは、犬の障害物競走のような競技です。飼い主と愛犬が息を合わせて共に走り、いろいろな種類の障害を越え、ゴールまでのタイムを競います。飼い主とワンちゃんの素晴らしい技は必見です！　観戦は無料です。

※注：出場犬以外の犬は、グラウンド内の観戦エリアには入れません。

＜場所＞軽井沢風越公園　総合グラウンド

＜日程＞

■オープンクラス　10月15日(土)11:00～14:30

■ミニチュアクラス　10月16日(日)11:00～14:30

※オープンクラスは体高40センチ以上、ミニチュアクラスは40センチ未満

＜主催＞NPO法人ワンワンパーティークラブ

＜特別協力＞一般社団法人軽井沢観光協会

＜後援＞軽井沢町

「補助犬って、なに？」

（「ユニバーサルデザイン講演会」より）

去る6月、軽井沢町ホスピタリティ講演会『ユニバーサルデザインを学ぶ(第二部)「補助犬って、なに?」』と題し、日本聴導犬協会の講演とデモンストレーションが開催されました。

講師　：　(福)日本聴導犬協会　有馬もと会長、他

協力　：　手のひらの会　高橋祐子会長、他(手話含む)

演題　：　「補助犬って、なに?」

補助犬とは、盲導犬、聴導犬、介助犬の総称で、正確には「身体障がい者補助犬」と呼ばれています。補助犬はユーザーの目であり、耳であり、手と同じ存在で、心の支えでもあります。補助犬は、不特定多数の人が利用する全ての施設や交通機関では、ユーザーとの同伴受け入れが、法律で義務付けられています。

当日は、音に対する対応、落し物の捜索など3匹の補助犬のデモンストレーションがあり、特に聴導犬は、①生活に必要な音を知らせる。②各種警報音を伝えることで生命を守る。③専用のコート着用により、万一の場合周りの人に状況を伝えやすい。との内容でした。(※当日は参加者からの寄付金もあり、ユニバーサルデザイ ンへの一歩が始まったと感じられる貴重な日となりました。)

同伴を温かく受け入れて仕事中の補助犬を見守りましょう。

［未来構想委員会　芦田 眞一・滝沢 信子］

Contents 3

「タイ」インバウンド誘客宣伝報告

7月13日より7月18日までタイ国のバンコククイーン・シルキット・ナショナル・コンベンション・センターにおいて、タイ観光サービス協会(TTAA)主催の第19回タイ国旅行フェアの誘客宣伝に参加しました。日本の参加ブースはJNTOブース+日本側共同出展43団体がPlenary　Hallにジャパンゾーンとして出展したものです。長野県ブース(軽井沢町含む)、アルピコグループ、信濃町ホテルタングラムが出展しました。

軽井沢町はタイ国語のパンフレットを用意していたため大変好評で、長野県内は松本城と軽井沢の知名度が高いと実感しました。タイの特色は、他国の台湾等の団体ツアーとは別に、いわゆるFIT(Foreign Independent Travel)とされる個人または少数でコース・日程・宿泊施設を決めるお客様が半数以上となっているとのことで、そのユーザーのニーズに答えるには一工夫必要であると感じた次第です。今後もインバウンド部会の皆様と協働し、軽井沢への誘客に努めて行きたいと思います。

［軽井沢町観光経済課長　工藤朝美］

Contents 4

信州デスティネーションキャンペーン（信州DC）が始まります

デスティネーションキャンペーン(DC) は、北海道から九州まで JR6社が地元観光関係者や自治体と協力し、全国の旅行会社等の協力を得ながら、全国にその地域を旅行先として PRする国内最大級の観光キャンペーンです。自治体、観光関係団体、観光事業者等が一丸となって、観光資源の掘り起こしや磨き上げ、観光客受入体制の整備・充実を図りながら信州 DCを実施することにより、全国からの集中的な誘客や地域経済の活性化が図れるとともに、キャンペーン後も継続して観光振興を推進する体制を確立していくというキャンペーンです。

信州 DCのキャッチフレーズは「世界級リゾートへ、ようこそ。山の信州」です。そして、軽井沢のテーマは「エコツーリズム」といたしました。

世界級リゾートへ、ようこそ。山の信州
信州デスティネーションキャンペーン 2017.7.1-9.30

平成28年は「プレ DC」、平成29年は「本 DC」、平成30年は「アフター DC」、と 3年間信州 DCが開催されます。軽井沢観光協会ホームページ等で情報をお知らせして参りますのでどうぞご覧ください。

［事務局：新宅 弘恵］

Contents 5

『Ruiza ちゃん！取材日記』

軽井沢イメージキャラクター Ruiza ちゃん！

『軽井沢ハーフマラソン 2016』6,000 人が疾走

国内でも人気が高い「軽井沢ハーフマラソン2016（第31回ロードレースin軽井沢）」は、5月の晴天の中、ハーフの部5,448人、ファミリーペアの部219組 471人と、およそ6,000人の参加を得て開催されました。本年も金哲彦氏（プロランニングコーチ）、TOKYO GIRLS RUN（東京ガールズコレクションランニングチーム）も加わり、華やかさと爽やかさが一段と増しました。一方、「東日本大震災復興支援募金」には、選手から多額の寄付をいただき誠にありがとうございます。（2016年826,500円）

毎回多くのボランティアの皆様に支えられており、本大会に賛同し「特典サービス」を設ける店舗も年々増え、選手・家族等、ボランティア、運営スタッフに大変好評です。なお、本大会の町内総宿泊者数は2,929人（45.10％）で、他に飲食や土産などの消費を考えると総合的な地域経済効果としては絶大なものがあります。

【本大会の評価等は、RUNNET（https://runnet.jp/）でご覧いただけます】

年々成長する『グランフォンド軽井沢』

心地よい5月の風を感じる中、「グランフォンド軽井沢2016」が開催されました。本大会は二日間をかけ開催するもので、初日は、町内のエイドステーションで地元の料理等を楽しみながら走るグルメフォンドに604人、ペアで楽しむタンデムフォンド（二人乗り）に37組74名が参加しました。（他、ハーフ＆ハーフに53名参加）。5月15日の本番「グランフォンド」は早朝6時15分、浅間山麓一周の123㎞、獲得標高約2,370m以上にもおよぶレースに1,342名が挑みました。

今年から嬬恋スタートが設定され、来年は小諸スタートも計画されています。浅間山麓には、2市（東御・小諸）3町（軽井沢・御代田・長野原）1村（嬬恋）で構成する“広域協議会”があり、今後は連携を図りながらより魅力的なイベントとなるよう検討してまいります。

第 15 回　ジーロ・デ・軽井沢報告

第15回ジーロ・デ・軽井沢は平成28年5月21日（土）22日（日）、現代のクルマには見られない個性あふれる魅力的な戦前車から、今も尚エンスーの心ゆさぶる70年代までのヒストリックスポーツカー20台が初夏の軽井沢に集まりました。

初日は軽井沢エルツおもちゃ博物館、2日目は軽井沢の新名所となりつつある軽井沢発地市庭を多くの観戦者に見送られながら、あらかじめ設定された軽井沢周辺の風光明媚なコース約350キロをタイムラリー形式で競い合ったジーロ・デ・軽井沢。両日とも好天に恵まれ多くの旧車ファンの声援を受けていました。

Contents 6

軽井沢町ホスピタリティ講演会（平成28年6月13日）『ユニバーサルデザインを学ぶ』

当協会では、今年4月に施行された「障がい者差別解消法」の理解と同時に、「ホスピタリティを高めた滞在型リゾートの実現（軽井沢観光重点施策）」の推進のため、高齢者や障がい者に適する施設づくりや、対応の手段・内容を学ぶ機会として、『ユニバーサルデザインを学ぶ』をテーマに講演会を開催しました。また、当町は国際競技（特にパラリンピック）などの事前合宿誘致を模索していますが、基本は各施設やインフラが競技参加者に適合しているか、調査とともに改善の必要性を意識する場でもありました。本講演会には、行政や関係者に多数参加をいただきました。バリアフリーの理念について概略ではありますが共有が図れたと考えています。

（「手のひらの会」協力による手話通訳実施）

講師：日本バリアフリー観光推進機構　理事長　中村元氏
演題：『旅館集客20倍を実現した、バリアフリー観光の秘密』

［未来構想委員会　芦田 眞一・滝沢 信子］

高齢化の進展や障がい者の旅行欲求に対しバリアフリー化は必須となっている。全国的な傾向であるが、パンフレット等PRツールに記載されているバリアフリー“可”は障がい程度により一律には当てはまらず、トラブルも少なくない。各々バリアが異なり、細やかな対応と情報発信が必要となる。近年、旅行を望む（楽しむ）高齢者や障がい者が増え、またその市場も拡大をしている。例えば駐車場から施設までの距離、コンクリートや土・砂利等の通路状態、段差や介助者の有無などにより、移動や行動できる範囲を個人に応じて徹底した正確な現地調査の必要性が問われてきた。

地域ではそのような調査を基に、障がい者の目的や状況に沿った施設を紹介し、同時に施設にも情報を伝え、バリアの度合を共有化することで利用者と施設側のストレスを無くすことが必要である。同じくバリアフリー市場を意識し、旅行案内機能を有する“核”となる組織が求められている。「伊勢志摩バリアフリーセンター」は全国初のワンストップで対象者に旅行案内を提供できる組織として誕生し、ここ数年は特に全国からの視察が多い。調査方法は施設とのネットワーク化、施設へのアドバイス等と質問は多岐にわたる。対応する施設の留意点を挙げれば「大きなテレビ」、「目立たないデザイン性のある手すり」、「車いすの高さの畳」、「段差なく移動できる室内はもとより室内風呂にも支障なくはいれる配慮」等細やかな部分の改善まで行きつく。これらバリアフリーを実施した施設は、健常者にも歓迎されることから地域を挙げて取り組む例も少なくない。伊勢では少ない投資（改装する部屋を限定する等）で先ず稼働率を高め、目標値を定め徐々に適応室を追加するなどした旅館が、結果的に集客を2年間で10倍に実現できた例があり全国からも注目されている。

（二部の介助犬報告は、「ドックツーリズム」の項で紹介します）

軽井沢 Topics

G7交通大臣会合まもなく開催！！

Ｇ７交通大臣会合が9月24日（土）25日（日）いよいよ開催です。今年、日本国内で行われた2016年サミット関係閣僚会合のラストを飾ります。議論されるテーマやその成果も気になるところではありますが、違った角度から会合開催の意義を考えてみたいと思います。

7月7日に軽井沢高校の特別授業に講師として声をかけていただきました。その際、生徒達に次のように説明しました。

> 他の開催地はみな県庁所在地やその県を代表する都市ですが、軽井沢は唯一「町」です。
> 会場となる軽井沢プリンスホテルは自然に囲まれ、とても恵まれた環境であり、新幹線の駅を降りてすぐの場所です。

写真を見てもらいながら説明した後、生徒達からの感想は「あらためてこの町を誇りに思った」「なぜ軽井沢で開催されるかがわかった」というものでした。軽井沢町は、リゾート会議都市として最適な環境が整っていると思います。歓迎バナーの設置や町内の清掃活動など、地域住民みんなで歓迎準備を整えています。子ども達もＧ７給食を味わい、花文字を造ったりしてくれました。

会合が成功裡に閉幕することを心より祈念し、微力ながら少しでも役に立てればいいと思っています。

［軽井沢町企画課 閣僚会合推進係長 竹本 浩次］

『町民会議会長・土屋芳春（軽井沢リゾート会議都市推進協議会会長＆軽井沢観光協会長）』より

５月に開催された伊勢志摩サミットのように直接的な経済波及効果はすぐには期待できないかもしれませんが、交通大臣会合の開催が軽井沢町の将来にとって大きな１歩となり、国内有数のリゾート会議都市という知名度を獲得する日も近いのではないでしょうか。

軽井沢ウィンターフェスティバル 2016“冬もあったKARUIZAWA”
冬の軽井沢の素晴らしさ、一緒に参加して楽しみましょう！！

軽井沢では賑やかな夏が終わり、紅葉の素敵な秋があり、冬を迎えます。

冬の軽井沢は夏や秋にも負けない素晴らしさがあります。

そんな冬に相応しいイベントを用意しているのが「軽井沢ウィンターフェスティバル」であり、「ホワイトクリスマスin軽井沢」です。関係者は夏前から準備に専念しています。

今年のウィンターフェスティバルのキャッチフレーズは「冬もあったKARUIZAWA」。

冬の軽井沢は都会に比べれば寒いですが「いろいろなイベントで、全てが温かい、心も身体もあたたまる」の気持ちで取り組みます。

ホワイトクリスマスin軽井沢では下記のイベントを計画しています。当日にはさらにパワーアップすると思いますので楽しみにお待ちください。

2016年11月26日(土曜日)　オープニングクリスマス・マルシェ　15時～19時(予定)

昨年大盛況だった軽井沢駅前本通りを一部“歩行者天国”にしたマルシェ。

いろいろな飲食やお買いもの、各種パフォーマンスなど盛りだくさん。

店舗数も増え昨年よりパワーアップしたマルシェです!!　X'mas・HANABI 18:00～

2016年12月17日(土曜日)　クリスマス・マルシェ　16時～20時(予定)

今年はマルシェのダブル開催。場所はイルミネーションでおなじみの「恵みシャレー軽井沢」(旧軽、雲場池付近)です。

飲食やお買いものだけでなく、音楽イベントやキャンドルサービスなど本当のクリスマスの雰囲気を味わっていただけます。

2016年12月18日(日曜日)　軽井沢吹奏楽団　クリスマスコンサート　14時～17時(予定)

冬の定番、今年も軽井沢大賀ホールで開催します。(入場無料)

クリスマス期間中(11月26日～12月25日)は16時半～21時半までイルミネーションが点灯し、町内各所でキャロリングが行なわれます。《上記以外にもたくさんの楽しい企画を用意しています!!》

［軽井沢・冬ものがたり実行委員会 事務局長　佐久間 顕］

GREEN BREEZE 軽井沢観光協会広報誌
No. 41
2016年8月28日発行
■発　行：軽井沢観光協会　■発行人：土屋 芳春　■編集責任者：佐藤 淑人
TEL:0267-41-3850　FAX:0267-41-3851
〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢 470-3
http://karuizawa-kankokyokai.jp